

六甲山といわれて分からない人でも 宝塚とか有馬温泉や千里ニュータウン・大阪空港・芦屋・西宮・淀川と聞けば 大抵誰もが土地感はあるだろう。この地質図幅地域は こうした日本でも屈指の名所がひしめく大阪平野の北西部にある。

東京首都圏と並んで 人口過密の関西の中心地であり ベッドタウンを擁するこの大阪平野周辺は 高度成長の波にのり宅地開発やゴルフ場などの建設が推進され 丘陵地帯が年々著しく変貌を遂げている最たる地域ともいえよう。

平野の地質は第四紀の問題であり 応用地質・土质地質等工事関連の問題であり 実際 日常生活を送る人々の生々しい現場の地盤・地下の問題でもある。

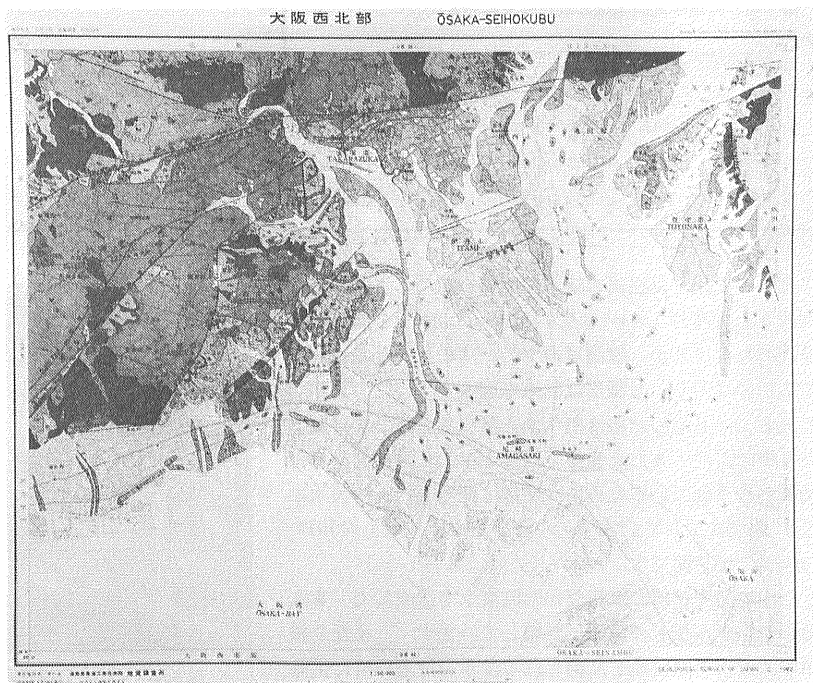
本地域の地質は 主に六甲など山地を構成する「基盤岩類」と丘陵及び平野部の「被覆層」とからなる。基盤岩類は 古生層(丹波層群) 白亜紀酸性火山岩類(有馬層群) 及び花崗岩類(布引・石切山・土橋・六甲)である。被覆層は 中新世の神戸層群 鮮新—更新世の大阪層群及びそれ以降の地層である。

本地質図幅では 特に大阪層群 第四紀地殻変動 六甲山の風水害と河川工事(砂防ダム)などの災害史について詳細に記述されている。

著者の藤田和夫・笠間太郎の両氏は芦屋市に住み 30年以上にわたり 現われては直ぐ埋められる宅地造成や道路工事等による小さな露頭も見逃すまいと 地元の人達に密着しながらこの地域の地質の研究を続けておられる。しかし 特に大阪層群と段丘との関係 平野と大阪湾の地下地質については未解決の分野が多く 藤田氏は永年悩み 試行錯誤を重ね 最近になって確信をもってまとめられる段階になったと述懐しておられる。したがって 本地質図幅は藤田氏のライフワークともいえる大作の巻頭を飾るものといえよう。

それにしても この地域にはたくさんの活構造があり 驚かされてしまう。60万年以降の地層が 0.5mm/年の変位速度で変動して 急傾斜したり あるいは断層で切られたりしているのである。また忘れたころにやってくる災害にもくじけないで 自然条件と闘い これを克服しながら その土地に住んできた先人達の生命力と英知に驚嘆しないではいられない。

この地質図幅と報文は いろいろの事を読者に語りかけてくれる。この「大阪西北部」に引き続いて 隣接の「神戸」「須磨」及び「大阪西南部」図幅が世の中に送り出される予定であり 印刷になるのが待ち遠しい。



5万分の1地質図幅の新刊

大阪西北部 OSAKA-SEIHOKUBU

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著者 藤田 和夫・笠間 太郎
発行 工業技術院 地質調査所
取扱先 東京地学協会 (03)-261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店
販売価格 2,390円

地質ニュース	第338号	10月号
	定価 ¥540	干実費
昭和57年10月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久	雄
発行人	株式会社 実業公報社	
印刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部